

釧路・釧路市地区 教育経営研究会

- 1 目 的 学校運営上の諸問題について、全道の情勢及び釧路地区の実情を交流し、道小・道中校長会の活動に反映させ、もって各学校の経営充実に資することを目的とする。
- 2 主 催 釧路校長会 釧路市小中学校校長会
- 3 後 援 北海道教育庁釧路教育局 釧路管内町村教育委員会連絡協議会 釧路市教育委員会
- 4 主 管 釧路校長会
- 5 日 時 令和6年8月28日（水）
- 6 会 場 オンライン開催（配信本部…Digital station デジラボ）
- 7 参加者 釧路校長会会員 釧路市小中学校校長会会員 他（合計83名）
- 8 日 程
 - 13時00分～13時05分 開会式
 - 13時05分～13時45分 全体会① 道小、道中役員による教育情勢説明、質問事項への回答
 - 13時45分～14時50分 全体会② 提言、質疑応答
 - 14時50分～15時00分 閉会（事務連絡）

9 全体会①

（1）北海道小・中学校長会の活動説明

北海道小学校長会 事務局長 田 邊 芳 明 氏（札幌市立豊園小学校長）

- ・道小、道中の総会研修会、理事研修会などの会議・教育研究大会に係る活動について
- ・全国連合小学校長会、全日本中学校長会の総会・研修会について
- ・全道会長研修会、道教委への要望書提出・意見交換会、小中合同事務局研修会について
- ・北海道小学校校長会教育研究大会、北海道中学校長会研究大会について
- ・全国連合小学校長研究協議会、全日本中学校長会研究協議会について
- ・道小・道中の事務局研修会、関係団体への役員派遣、刊行物、組織運営について

（2）教育情報

北海道小学校長会 事務局長 田 邊 芳 明 氏（札幌市立豊園小学校長）

- ・一人一台端末の共同会議について
- ・道教委と道小・道中・道公教による学校現場の現状・課題の協議について
- ・中教審特別部会、働き方改革策の答申案について

（3）釧路地区の質問事項に対する回答

北海道小学校長会 幹事 田 中 亮 一 氏（江別市立江別第二小学校長）

北海道中学校長会 幹事 高 橋 泰 明 氏（室蘭市立東明中学校長）

- ・北海道全体における期限付き教諭の配置状況とその確保に向けた取組の見通しについて
- ・小学校の専科指導加配について、教科や対象学年に関わる実態と今後の見通しについて
- ・役職定年となった管理職の状況や今後の見通しなどについて
- ・義務教育学校の職員配置についての基準や実際の配置例について
- ・極小規模の学校が義務教育学校になることについて
- ・60歳に達する日以降の給与に関する措置について7割水準とする手当と7割水準としない手当があることに関わる分類について
- ・主幹教諭配置に関わる今後の見通しについて

10 全体会②

(1) 提言A 鉏路市内小・中学校等における働き方改革の現在地～小中合同研修会の成果の活用～

提言者 鉏路市立東雲小学校 校長 福田由美子

＜提言内容＞

- 校長として、常に自校の課題に正対しスピード感をもって具体策を講ずること、前年度踏襲を是とせず実態を踏まえた学校経営を進めること、学校経営のビジョン・ゴールを明確にすることなどの必要性。
- 改革の加速化に必要なことと取組における戦略を参考に優先順位を検討し、継続的に改革実行に取り組んでいる内容についての紹介。
- 「ガイドライン・法令を知り、実現を目指そうとする（意識改革）」「リスクを常に考えて、効果が見込める効率の高い手段を探す（業務改善）」「効率よく効果の高い業務につながる組織やシステムを創る（組織マネジメント）」「意欲が持続するような安心安全と納得感のある職場を創る（働きがい働きやすさ）」を4つの柱とした具体例の提案。

＜感想交流＞

- マダラートは、目標設定及び業務推進をしていく上で大変参考になった。今後、自校や様々な研修会などの場で活用していきたい。
- ワークショップ形式でグループ協議を実施することで、他校の実践をも自分事としてとらえている様子から、他校の実践を自校の実践へつなげることの大切さを再認識できた。
- 働き方改革は、学校のみが取組だけではなく、行政との連携を重視して進めるべきであることを再確認できた。その上で校長の役割について整理していきたい。
- 働き方改革において問題となっている部活動の地域移行に関わる各町村の状況や見通しについて具体的に知りたい。
- 手詰まり感があった働き方改革に対し、今後取り組んでいくべき方向性がいくつか見えた。校長として明確なビジョンをもって取り組んでいきたい。

(2) 提言B 鉏路町大好きっ子の育成～「チーム鉏路町」教育委員会との協働体制～

提言者 鉏路町立別保小学校 校長 齋藤 超

＜提言内容＞

- 教育大綱や教育行政執行方針の内容を受けた「鉏路町大好きっ子」の育成を目指し、「鉏路町のひと・こと・もの」と結びつけたカリキュラムの重要性。
- 中学校区にコーディネーターを配置した地域学校協働本部と小中連携の仕組みとして学校経営方針を熟議する学校運営協議会の関わりを重視した組織の在り方を共有。
- 各種教育活動との関連付け・教材教具としての活用・体験活動の取り入れを視点としたカリキュラムの編成と各地区の具体的な取組例の紹介。
- 鉏路町の文化・まち・歴史・産業・人・自然について、観る・広げる・知る・調べる・伝える・考える・つくる・関わる・繋げる・触れる体験活動が、児童生徒が鉏路町に興味をもちふるさとを知り、自ら行動することにつながるという効果の強調。

＜感想＞

- 地域の可能性をコミスクや地域の方と掘り起こし、子どもが地域を好きになれる教育活動を探りたい。
- 地域の特色を生かしたふるさと教育の実践素晴らしい。キャリア教育に対しても教育委員会と連携しながら町全体で進めているはすごいパワーだと感じた。
- 地域の方々と交流したり、自然に触れたりすることから、児童生徒が郷土愛を深めている実践について学ぶことができた。
- 地域の可能性をコミスクや地域の方と掘り起こし、子どもが地域を好きになれる教育活動を探りたい。
- 魅力的な取組である。これまでの進化、発展がよくわかり、さらに充実した中身へと遂げているから様子を知ることができた。本実践のように持続可能な取組が求められている。

11 閉会 司会からアンケートへの協力依頼、事務連絡等を行い、閉会。